

令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	見える木曾馬の里づくり事業
事業主体 (連絡先)	木曾町 開田支所 木曾馬の里振興課 (0264-42-3331)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,725,014円(うち支援金:4,457,000円)

事業内容

- A, 木曾おんたけ健康ラボの横の土地で試験放牧のための造成工事を実施し、馬小屋と水飲み場の設置工事も実施した。試験放牧地へ訪れた観光客を対象に、木曾馬への意識調査を行った。
- B, 造成した試験放牧地へ播種を行い、採草地風景の復元を図った。
- C, 木曾馬保存のサポートオーナー証を作成し、木曾馬乗馬センター場内に券売機を設置して販売を実施した。場内に木曾馬の保存活動への協力を求める説明看板を設置し、保存への協力を促した。



【放牧地を訪れた観光客の様子】

- ・試験放牧 水生植物園…8月
造成地……10月

【目標・ねらい】

- ① 観光資源としての活用方法の模索
- ② 木曾馬に関わる景観形成の方向性の明確化
- ③ 保存に係る費用の確保

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 木曾馬を国道沿いの目に入りやすい場所で放牧することにより、開田高原に木曾馬がいることを視覚的に印象づけ、観光資源としてアピールすることができた。意識調査から木曾馬乗馬センターへの支払い意識額が1,200円であることが分かった。
- ② 意識調査から開田高原の自然と木曾馬との景観的調和に魅力を感じる人が多くいることが分かり、今後の保存・活用への活動の参考となった。
- ③ 木曾馬乗馬センターの入場料は無料であるが、保存協力の券売機を設置することにより保存活動への費用を確保する仕組みを構築することができた。

※自己評価【B】

【理由】

- ・試験放牧の時期を地域イベントに合わせたため、とても多くの観光客に木曾馬をアピールすることができたため。
- ・木曾馬乗馬センターに新たな収入の仕組みを構築できたため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

引き続き国道沿いのより開田高原らしい場所での試験放牧を実施し観光資源としてのアピールを続けるとともに、木曾馬の里リニューアルに向けた具体的な運営方法やあり方を検討する。また、採草地の復元やニゴづくりなど木曾馬文化と関連させた景観的調和を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある